

令和4年度 第1回神戸市外国人市民会議 議事要旨

市長室国際部国際課

日時	令和4年7月25日(月) 15:30 ~ 17:30	場所	対面・Zoomによる会議
出席者	兵庫県立大学環境人間学部教授 乾美紀 在日本大韓民国民団兵庫県地方本部事務局長 金相英 神戸華僑総会事務局長 石鋒 ズオン・ゴック・ディエップ マサヤンタハナン副代表 川口フローラ ひょうごラテンコミュニティ代表 大城ロクサナ 神戸大学国際文化科学研究科博士課程 黄 柏瀧 [敬称略]		
	市長室国際部国際課(事務局)、市長室広報戦略部広聴担当(広聴)、教育委員会事務局学校教育課(学校教育課)、神戸国際コミュニティセンター(KICC)		
議事	(1) DXによる多文化共生の推進 (2) 「集まる場所」の充実 (3) 外国人児童の学習支援・進学支援		

1. 開会

2. 議事

(1) DXによる多文化共生の推進

(市長室広報戦略部広聴担当及び事務局より資料に沿って説明。)

- 委員) 加古川市が先行実施しているとあるが、どういった成果があったか、具体例はあるのか。
 広聴担当) 加古川市では、新施設の愛称募集や、スマホ初心者講座のテキストへの意見募集等を行っている。神戸市では「わたしから神戸市への提案」についてオンラインプラットホームの掲示板機能の活用を検討している。
- 委員) ネット上にある掲示板やコメントでは聞くに堪えない書き込みを見る。市長への手紙等誹謗中傷の書き込みがあった場合は、プロバイダ管理を神戸市自身がするというのか。また、パブコメを設けて、一方通行で市民の声を聴くのを双方向にするのか。また、加古川市でのスマートシティ構想公表に向けての3つのフェーズの区別があまりつかない。
- 広聴担当) 管理は神戸市になると考えている。
 掲示板が荒れることも懸念されるが、投稿に際し、本名や個人情報登録が必要になるので、加古川市ではそれほど荒れなかったと聞いている。
 加古川市では、パブリックコメントに至るまでのタイミングでオンラインプラットホームを活用しており、パブリックコメントは従来通りの募集となっている。神戸市では、パブリックコメントにオンラインプラットホームを活用するかは未定である。
- 座長) 神戸市からは多言語に機械翻訳するということだが、外国人の方がコメントをしたりする時は母語で書けるのか、もしくは外国人から返事をする時、機械翻訳してくれるのか。
- 広聴担当) 自動翻訳の機能は、現在オンラインプラットホームでは持っていない。
- 事務局) 災害情報では、神戸市のシステムを活用し多言語で発信を考えている。多言語化しないと災害情報が外国人の方への情報が伝わらないため、DXを活用して対応できればよいと考えている。
- 座長) オンラインプラットホームに翻訳等の機能がなく、日本語のみだと掲示板を見ることもしないし、意見を言いたくても日本語でしか書き込めないのであれば、とてもハードルが高い。
- 委員) 日本語を話すことが出来ても読み書きが不安な方もいる。日本語なら書こうともしないし、読もうともしない。読んで書くのであれば、よほど日本語能力のレベルの高い外国人でないと参加しない。自身のコミュニティの中でもそこまで日本語ができる人は少な

- い。
- 委員) 災害情報は神戸市からコミュニティへ発信され一方通行の状態である。あなたが住んでいる地域の現況はどうか、屋根が崩れているとか、災害の時にコミュニティの中の現状について報告できると災害状況を把握できる。韓国民団が防災委員会を作っている。各支部でネットワークを作っている。位置情報を双方向で確認できる。災害はぜひそのような情報について報告・返信ができるように加味できると良い。
- 委員) オンラインプラットフォームでは、神戸市が政策を発信するだけか、あるいは、外国人住民だけでなく、一般住民でも自分の意見を述べることができるのか。また、他の SNS とあまり変わらないように感じたので、インスタグラムやツイッターなど既存の SNS で情報収集するのも1つの手ではないか。災害情報の発信は機械翻訳しない方がよい。同じパターンのを日本語が堪能な外国人の方に翻訳して新しい情報を発信した方がわかりやすいし、伝えやすい。台湾では、政府からの発信は最初ずっと中国語だったが、その後、感染者情報を多言語で発信していた。そうしないと親切ではないと感じる。
- 広聴担当) オンラインプラットフォームと他の SNS との一番大きな違いは、例えばフェイスブックの管理者はフェイスブック（※現メタ）だが、Decidimの管理者は神戸市なので、参加者管理など、神戸市で一定舵取りができるのが特徴。外国人の参加も設定できる。
- 事務局) 災害時の地域の状況についてはハザードマップのような形で、災害のある地域へ情報を発信している。地域の状況に応じて該当の状況を多言語で発信するシステムが機能上ある。ただ双方向のやりとりは現状ない。機械翻訳よりも翻訳する方が良いと思うが、災害情報時にすぐ発信する必要があるため、言語が増えると難しくなる。システム上では、日本語から多言語へ翻訳し、再度日本語へ翻訳する機能があり、その日本語を人の目で確認し発信できる。致命的な誤訳は減らすことができると考えている。
- 座長) たくさんの意見をありがとうございます。難しい部分もあるが、母語を用いてコミュニケーションできるツールがあればよいと思う。

(2) 「集まる場所」の充実

(神戸国際コミュニティセンター (K I C C) より資料に沿って説明。)

- 委員) 以前は区役所に行けば、外国人登録窓口では、自然と対応した職員から外国人に関する色々な情報があり、ワンストップサービスになっていた。ニューカマーもそこから色々な情報を得ていた。今は外国人が埋没している。K I C C が移転するとすれば区役所の中に移転してほしかった。現在は区役所内でも手続きや所管課等が分かりにくい。外国人に関する情報を得るにはK I C C に問い合わせればよいのか等、区役所とK I C C がキャッチボールできているのか。K I C C からワクチンに関する情報提供を行う場合はワンストップサービスで行うべきであるが、K I C C でワクチンに関するワンストップ窓口ができていないのか。また、K I C C の相談窓口がある4階まで上がる道がわからない。1階の交流スペースに相談窓口をスタッフが常駐でわかりやすく置かないといけない。ダイレクトで4階まで上がれない。
- K I C C) 外国人の方にK I C Cを知っていただくために、区役所で転入者向けにお渡ししているウェルカム封筒の中に、K I C C のパンフレットを入れており、K I C C の窓口を紹介している。パンフレットには多言語対応や問い合わせ先を記載しており、防災カード (11 言語) をリニューアルして入れている。ワクチンに関するワンストップサービスについて、神戸市から外国人の方にワクチンに関する書類を郵送する際は、イラストをつける等大切な書類であることをわかるようにした封筒を使用しており、外国の方にもわかりやすい動画配信をした。外国人支援団体と連携してワクチンの情報を提供したり、相談対応を行っている。K I C C のワンストップ相談窓口で対応した生活相談でも、846 件中 283 件がコロナ関係の問い合わせ対応となっている。

- 4階の窓口の案内について、再開発ビルを区分所有しており、4階を全面的に広報するのは難しい。1階のスペースに来ていただきスタッフから4階へ連絡をしている。
- 委員) 1階にガラス張りのオープンスペースがあるので、わかりやすく看板を一つ付けてほしい。また、ウェルカム封筒にK I C Cの問い合わせ先を載せる等、表にステッカーを貼れないか。一目でK I C Cに相談したらいいように、ウェルカム封筒の表紙に貼れないか。要望したい。
- K I C C) どういった形でできるか相談させてもらう。
- 委員) キッズ国際ひろばについて、新長田はベトナム人が多く、ベトナム語の絵本を読み聞かせる方がよい。イベントでは、あいさつの言葉を勉強するとか、ベトナムの遊びや伝統的な衣装を着る体験ができれば、たくさんの人が集まるのではないか。学校で困っていることがあれば、K I C Cが通訳を紹介してくれる。こども日本語サポートひろばにベトナム語通訳がないため、K I C Cに連絡すれば通訳を手配できる、あるいは、学校からK I C Cに連絡すれば手配してくれるということで学校も喜んでいて。困った事があればK I C Cへ連絡すればいいと周知されている。
- K I C C) 絵本の読み聞かせ等は来年度予算の中で検討していく。
- 委員) 住民登録のために役所に行ったときに、困った時にはいつでも連絡できると外国人住民に伝えられたらよい。以前、自分が別の地域に住んでいた際、外国人とわかると、親切に説明されたので、このまちは住み心地がいいと思った。そこからわかることもありとてもよかった経験がある。資料や相談先の紹介等、役所で出来ることなので是非してもらいたい。
- K I C C) 中央区役所が移転したが、現在4階の市民課の横に、英語・中国語で通訳できる外国人相談窓口を設置している。どのような形で外国人に広報できるか。他の区役所でもK I C Cを紹介してもらおう等、連携していきたい。
- 座長) K I C Cの拠点は3つあるが、ウクライナ避難民の方は西区に住んでいて、新長田のK I C Cまで来ないといけなくて遠い。当事者にうまく伝わるのができたらいい。日本語教室等の参加に電車を乗り継ぐ必要がある等難しい場合がある。避難民の方が多い地域で拠点を設けることはできないのか。
- K I C C) 日本語学習支援について、K I C Cで、ウクライナ避難民の方向けに三宮にほんごプラザを6月下旬に開設した。そこまで来ることができない方へは、今月よりハイブリットという形でオンラインでも受講可能となっている。無料でっており、相談があればご案内が可能。
- 今年度からは、神戸常盤大学と連携して外国にルーツのある子どもへの学習支援にも取り組んでおり、神戸常盤大学の事業に対して、K I C Cは学習支援員の手配や場所の提供の面で協力をしている。
- 座長) こういったことの広報についても、たくさんの方に伝わるようにしていただけたらと思う。他の大学にも連携が広がっていったらいい。
- K I C C) ぜひ県立大も連携をお願いしたい。

(3) 外国人児童の学習支援・進学支援

(教育委員会事務局学校教育課より資料に沿って説明。)

- 座長) 神戸市で特別枠を実施している高校は甲北高校のみで、神戸市外に進学する方もいる。県立芦屋高校の特別枠は人気が高い。葺合高校、六甲アイランド高校は難しいが。市立で特別枠がある学校が増えるとよいと思う。電気や機械の勉強をし、日本で職をつけたい学生には科学技術高校がよいのではないか。大学進学も良いが、手に職をつけていくことも大切である。
- 兵庫県内で9名しか特別枠での高校進学ができていない。応募が少ないこともあるが、来日して3年以内とか、親が日本人だと駄目だとか条件も厳しいため、融通を利かせて、もう少しコースを増やせたらいい。
- 委員) こども日本語サポートひろばができて、緊急の時も対応してくれてよかったと思うが、ベトナム人のランゲージコーディネーターが少ない。

- 学校教育課) 学校に派遣している多文化共生サポーターとランゲージ支援員は、一定期間内に何回支援に行っていただくという契約である。こども日本語サポートひろばに常駐しているのはランゲージコーディネーターで、中国語、ベトナム語に対応している。ベトナム語のランゲージコーディネーターは募集をかけているものの欠員が続いている。
タブレット端末上で通訳者がリアルタイムに通訳をおこなってくれるサービスがあり、試行利用しているところではあるが、常駐している方がほしいので、募集は続ける。
- 委員)
黄委員) サポーターをしている。うまくオンラインでもできるようになればよいと思う。
_今日の3つの議題は言語が共通の問題点。推進する市役所は多言語の職員を把握しているか。外部団体やサポーター、ボランティア、派遣により外国人とのコミュニケーションを取っているように思える。市役所の職員も言語を話せないといけない。市役所の中でどの程度確保しているのか確認したい。
- 事務局) 市役所の職員では国際課の中で5名の外国人スタッフがいる。翻訳、情報発信等ミッションを持って職務を行っている。職員を増やして対応することも限界があり、K I C C、コミュニティ等と連携して対応している。
- 学校教育課) 教員採用試験では日本語指導の資格を持った応募者に加点する仕組みが導入されており実際資格を持った方の採用実績もある。そうした人材確保も進めている。
- 座長) ウクライナ避難民の子どもについて、現在は学費無料だが今後どうすればよいか相談もある。本来は公立学校へ行ってほしいと思うが、選択肢が少ないことは残念である。もっと経済的支援や言語的支援について考えていただき、住みやすくなるようにしてほしい
- 学校教育課) 現時点で避難民の方で神戸市の小中学校に通っている方もおられる。通訳支援員も配置し、日本語学習の支援も行っている。公立への通学について、ご相談があれば教えていただくと良い。
- 座長) 今後とも公立学校への受け入れが推進できればいい。神戸市として考えていただきたい。

以上